

モル計算と濃度計算

ほうじ茶

2025年11月10日

概要

本稿では、モル計算と濃度計算を扱う。当然ながら、試薬の調整で必要な知識である。微生物を扱う上では、寒天培地をつくる際にどのくらいの寒天が必要なのか？、植物の成分抽出をする上では、エタノールの濃度はどのくらいが適切なのか？などを考える必要がある。これらの計算ができない限り、実験系を組むことができず実験のスタートラインに立てない。そのため、まずは計算できるようになることを目的とする。

化学 Chemistry の基本的な考え方は、すべての物質は粒で構成されているということである。その粒の構造や運動を、実験的に導かれ帰納的に体系化していることを忘れないで欲しい。

目次

1	国際単位系 International System of units	2
1.1	基本単位 Basic units	2
1.2	物質量 Amount of substance	2
1.3	接頭辞 Prefix	3
1.4	単位換算 Unit conversion	3
2	組立単位とその意味	4
2.1	2乗、3乗のイメージ	4
2.2	単位の構成	4
2.3	戸惑いやすいが換算できる単位	6
2.4	mol から換算できる単位	6
2.5	百分率は分母に 100 が隠れてる	6
参考文献		a

青文字をクリックすると、対応したページに遷移する。

1 国際単位系 International System of units

科学 Science の世界では、測定や計算に国際単位系^[1]という国際的に統一された単位系を使用する。この単位系を用いて数値と単位の組でデータを示す。この組のことを物理量 Physical quantity という。7つの基本単位を組み合わせて組立単位にすることで、さまざまな単位を作ることができる。組立単位を知ることによって、求めたい単位に変える単位換算 Unit conversion を行うことができるようになる。

1.1 基本単位 Basic units

基本単位は次の7つである。

表 1: 基本単位

データの種類	英語	単位
時間	time	[s]
距離	route	[m]
電流	Intensity of current	[A]
質量	mass	[kg]
絶対温度	Temperture	[K]
物質量	number	[mol]
光度	Luminous Intensity	[cd]

モル計算や濃度計算においては、質量 m [kg]、物質量 n [mol] のみ登場する。それ以外は参考として載せておくので、眺めてみると良いだろう。

1.2 物質量 Amount of substance

原子1粒同士を比較しても、非常に小さいため明確に重さの違いは分からぬ。しかし、何万、何億の粒を集めて比較すると、違いが分かるようになる。かつては、炭素原子を基準として 12 [g] になるために必要な数である 6.022×10^{23} 個 (アボカドロ数) を 1 [mol] としていた。ただし、「炭素」依存での定義であり普遍性に欠ける。

ここでアボガドロ定数 N_A を $6.022,140,76 \times 10^{23}$ [/mol] と定義^[5] することで、単位の大きさを定めた。簡単に言えば、原子や分子の粒を N_A 個のことを 1 [mol] と置いた。この考えは、12個を1ダースと置くのと同じである。

物質量以外が何を基準として定義されているのかは、付録 A 節に記載した。

1.3 接頭辞 Prefix

接頭辞とは、基本単位よりも大きい・小さいことを表す指標のことである。SI接尾辞では $\times 10^{\pm 30}$ まで定まっているが、よく使われる $\times 10^{\pm 12}$ までを紹介する。

表 2: SI 接頭辞

(+) 接頭辞	英語	指数乗	(-) 接頭辞	英語	指数乗
T	Tera	$\times 10^{12}$	p	pico	$\times 10^{-12}$
G	Giga	$\times 10^9$	n	nano	$\times 10^{-9}$
M	Mega	$\times 10^6$	μ	micro	$\times 10^{-6}$
k	kilo	$\times 10^3$	m	milli	$\times 10^{-3}$
h	hecto	$\times 10^2$	c	centi	$\times 10^{-2}$
da	deca	$\times 10^1$	d	deci	$\times 10^{-1}$

マイナス乗は、プラス乗にすると逆数になる。例えば、 10^{-6} は $\frac{1}{10^6}$ である。また、 10^{-6} は μ と置き換えられる。この考え方ができるようになると、単位換算が容易になる。

1.4 単位換算 Unit conversion

単位は、定義に基づいて組み立てることで新しい単位ができる。基本的には、同じ意味を持つものの同士を分母と分子に置き、約分することで求めたい単位へと変える。式(1.1)は、「1日は何秒か?」を求めたものである。恐らく、一度は計算したことがあるだろう。

$$1 \text{ [day]} = 1 \cancel{\text{[day]}} \times \frac{24 \cancel{\text{[hr]}}}{1 \cancel{\text{[day]}}} \times \frac{60 \cancel{\text{[min]}}}{1 \cancel{\text{[hr]}}} \times \frac{60 \text{ [sec]}}{1 \cancel{\text{[min]}}} = 86,400 \text{ [sec]} \quad (1.1)$$

単位換算を行う上で押さえるポイントは、最初の単位と求めたい単位に注目し定義としてどの物理量同士が等しいか考え約分する必要がある。今回の場合、1 [day] と 24 [hr] は定義より等しいので、分母と分子に置くことで理論上約分でき 1 と同じ意味となる。

次に、1.3節の接頭辞を用いた単位換算を扱う。一例として、[mL] を [L] に変える場合を考える。

$$1,000 \text{ [mL]} = 1,000 \times 10^{-3} \text{ [L]} = 1 \text{ [L]} \quad (1.2)$$

[mL] の m は、表 2 を参照すると指数乗は 10^{-3} である。そのため、まず接頭辞を指数乗に変える。その後、指数乗を掛けることで単位を換算できる。

当然ながら接頭辞を付けたす場合は、その指数乗の符号を変えたものを掛ければよい。一例として、式(1.2)の逆を考える。

$$1 \text{ [L]} = 1 \times 10^{+3} \text{ [mL]} = 1 \text{ [mL]} \quad (1.3)$$

2 組立単位とその意味

国際単位系を乗除算して表現したい単位を新たに作り出すことができる。この単位のことを組立単位という。各論的に次に述べる。

2.1 2乗, 3乗のイメージ

乗算して作り出した単位としては、square meter [m^2]、cubic meter [m^3] が挙げられる。meter [m] は一次元でありただの直線(図 1)である。

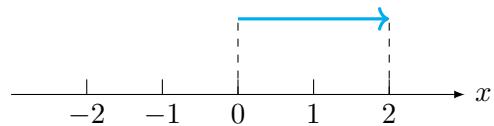


図 1: 一次元のイメージ

そこに [m] を掛けると二次元となり平面(図 2)である。これは、面積と同じ意味を示している。

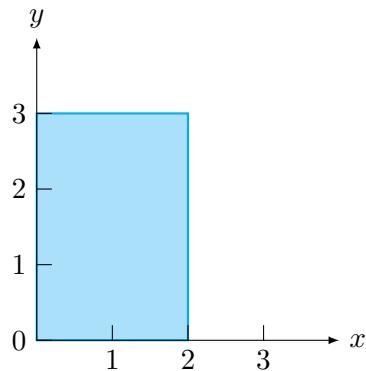


図 2: 二次元のイメージ

さらに [m] を掛けると三次元となり空間(図 3)である。これは、体積と同じ意味を示している。

2.2 単位の構成

単位^{*1}あたりの変化量は、分母に置くこと^{*2}で表現できる。そのため、一例として 1.4 節の式 (1.1) の単位は [hr/day] とも表記でき、[/day] は 1 日あたりという意味となる。

質量は、化学の計算においてはモル質量 [g/mol] の形で計算をする。モル質量とは、1 [mol] あたりの質量のことである。各原子ごとに一義の値が経験則から計算されているため、そ

^{*1} 大きさを 1 に仕立てた**のこと。

^{*2} 一般に $[/x]$ や $[x^{-1}]$ と表記されるが、本稿では分かりやすさより $\frac{1}{x}$ を用いる。

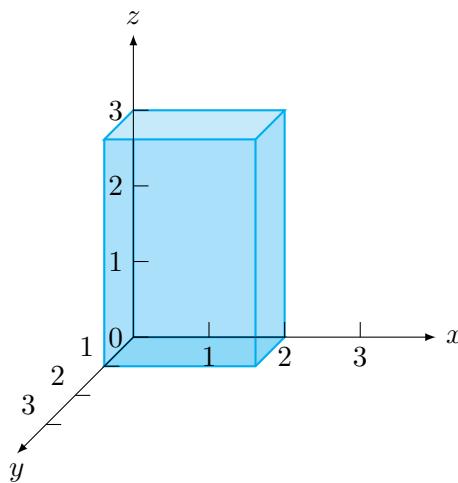


図3: 三次元のイメージ

の値を使えばよい。基本的には周期表に記載されている。日本化学会が公開している周期表を図 4 に示した。

図 4: 周期表 [7]

2.3 戸惑いやすいが換算できる単位

ここから先の内容は、知っているか知らないかの 0 と 1 である。そのため、簡単に表にまとめる程度にする。まずは、一見では換算できなさそうだけど定義上同じものである^{*3}。

表 3: 戸惑いやすいが換算できる単位

体積と質量	1 [cc]	$=$	1 [mL]	$=$	1 [g] ^{*4}
体積と密度	1 [L]	$:=$	$1 \text{ [dm}^3]$	$=$	$0.001 \text{ [m}^3]$
モル濃度	1 [M]	$:=$	1 [mol/L]		

2.4 mol から換算できる単位

mol を含んだ組立単位を表 4 に示す。

表 4: mol から換算できる単位

物質量とアボガドロ定数	1 [mol]	$:=$	$6.022 \times 10^{23} \text{ [個/mol]}$ ^{*5}
物質量と気体の体積	1 [mol]	$:=$	22.4 [L/mol]
物質量と液体の体積	1 [mol]	$:=$	$\frac{nm}{\rho} \text{ [mL/mol]}$ ^{*6}
物質量と固体の体積	1 [mol]	$:=$	$\frac{nm}{\rho} \text{ [cm}^3/\text{mol]}$

モル質量は大きく 3 つある。原子量、分子量、式量である。ただし、この 3 つは無単位量^{*7}として扱われているが、相対質量がモル質量と一致するので単位としては [g/mol] で良い。

表 5: 原子量、分子量、式量

Weight	略称	対象
原子量 Atomic Weight	A.W.	単一原子
分子量 Molecular Weight	M.W.	共有結合の分子
式量 Formula Weight	F.W.	イオン・塩などの化学式

2.5 百分率は分母に 100 が隠れてる

^{*3} 通常の = は同じことを示しているが、:= は左辺を右辺と定義するという意味である。

^{*4} 4°C の水基準である。それ以外では、値が前後することがあるので正確に量り取るときには適さない。

^{*5} アボガドロ定数の単位は、一般には「個」を省略して [/mol] を用いる。

^{*6} n を物質量、m をモル質量、ρ を密度とする。

^{*7} これらは、相対質量として定められている。 $^{12}\text{C} = 12$ を基準として、比の形で他の原子量を表現する。そのため、単位が約分され無単位量として扱われる。

参考文献

- [1] 産総研 計量標準総合センター. 国際単位系 (si)). . <https://unit.aist.go.jp/nmij/library/si-units>.
- [2] 科学技術振興機構 香取創造時空間プロジェクト. 世界を変える 1 秒の誕生. <https://www.jst.go.jp/erato/katori/feature>.
- [3] 中野享 山田善郎. 热力学温度の単位「ケルビン」の定義改定. https://unit.aist.go.jp/nmij/public/report/si-brochure/pdf/5_SI_%E3%82%B1%E3%83%AB%E3%83%93%E3%83%B3.pdf.
- [4] 森北出版. 「アンペア」の定義のこれまでといま. <https://note.com/morikita/n/n0d9537d45ce1>.
- [5] 倉本直樹. 物質量の単位「モル」の基礎解説とアボガドロ定数にもとづく新たな定義を導いた計測技術. https://unit.aist.go.jp/nmij/public/report/si-brochure/pdf/6_SI_%E3%83%A2%E3%83%AB.pdf.
- [6] 藤井賢一. プランク定数にもとづくキログラムの新しい定義. https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaesjb/61/10/61_716/_pdf/-char/en.
- [7] 日本化学会. 原子量表／化学で使われる量・単位・記号. <https://www.chemistry.or.jp/know/atom-unit>.

付録 A 基本単位の定義

基本単位には、一義性^{*8}と普遍性^{*9}を持った基準が必要であり世界共通のものである。その厳密な定義^[1]を紹介する。

時間の定義^[2]

原子や分子には、固有の振動数の光や電波を吸収し放射する性質がある。その性質を利用して、セシウム原子のマイクロ波の振動 $\Delta\nu_{\text{Cs}}$ を、9,192,631,770 回数えたときを1秒と定義した。 $[\text{Hz}]^{*10}$ は単位時間あたりの振動数のことであり、 $[\text{s}]$ と同じ意味である。

距離の定義

真空中の光の速さ c を 299,792,458 $[\text{m}/\text{s}]$ と定めることによって定義した。

電流の定義^[4]

かつては、真空中に 1 [m] 間隔で平行に置いた無限に長い 2 本の導体がそれぞれを流れ、これらの導体の長さ 1 [m] につき 2×10^{-7} [N] の力を及ぼし合う一定の電流を 1 [A] としていた。ただし、電流の単位を力として定義している。これは電流は素粒子の流れであるという本質が分かっていなかったためである。そのため、2019 年に改定された。

新たに電気素量 e^{*11} を $1.602,176,634 \times 10^{-19}$ [C] と定めることによって定義した。[C] は単位時間あたりの電気量のことであり、 $[\text{A} \cdot \text{s}]$ と同じ意味である。

質量の定義^[6]

かつては、国際キログラム原器（白金とイリジウムの合金で出来た円柱）の質量を 1 [kg] としていた。ただし、経年劣化により一義性に欠けるため、電流と同様に 2019 年に改定された。

物体の静止質量を m 、光子の周波数を ν 、プランク定数を h とすると、アインシュタインの相対性理論と光量子仮説によれば式（付録 A.1）である。

$$E = mc^2 = h\nu \quad (\text{付録 A.1})$$

ここでプランク定数 h を $6.626,070,15 \times 10^{-34}$ [J · s] と定義することで、周波数 ν [Hz] の光子のエネルギー E と等価な質量が m [kg] である。

^{*8} ただ 1 つに定まる性質のこと。

^{*9} 広く全ての場合にあてはめることができる性質のこと。

^{*10} ヘルツは、回数を示す単位である。

^{*11} ファラデー定数（電子 1 [mol] が持つ電気量の値のこと）を F 、アボガドロ定数を N_A とすると、 $e = \frac{F}{N_A}$ でも求められる。

絶対温度の定義 [3]

かつては、氷と水、水蒸気が共存する温度 0.01°C の約 273 分の 1 を 1 [K] としていた。ただし、「水」という物質に依存しており、かつ三重点の実現可能性が低いため電流と同様に 2019 年に改定された。

理想気体の場合、個々の分子は他の分子と衝突するとき以外は自由に動く。1 個の单原子の平均の運動エネルギーは、質量 m 、2 乗平均速度 $\overline{v^2}$ 、ボルツマン定数 k 、絶対温度 T とすると式 (付録 A.2a) である。

$$\frac{1}{2}mv\overline{v^2} = \frac{3}{2}kT \quad (\text{付録 A.2a})$$

一方で、理想気体の分子 nN_A 個^{*12}を体積 V の容器に入れた場合、その圧力 p は、質量 m と 2 乗平均速度 $\overline{v^2}$ とすると式 (付録 A.2b) である。

$$p = \frac{1}{3} \frac{nN_A m}{V} \overline{v^2} \quad (\text{付録 A.2b})$$

式 (付録 A.2a) と (付録 A.2b) より、式 (付録 A.2c) の理想気体の状態方程式が得られる。

$$p(T)V = nN_A kT \quad (\text{付録 A.2c})$$

エネルギーは $[J] = [\text{kg} \cdot \text{m}^2/\text{s}^2]$ で表される。ここでボルツマン定数 k を $1.380,649 \times 10^{-23} \text{ [J/K]}$ と定義することで、単位の大きさを定めることと同じになる。

光度の定義

特定の周波数 $540 \times 10^{12} \text{ [Hz]}$ の緑色の光を出す特定の方向に、放射強度 K_{cd} が 683 [lm/W] である点光源の光度を、 1 [cd] と定義した。

^{*12} N_A はアボガドロ定数であり、ボルツマン定数 k と乗算することで気体定数 R となる。

d

付録 B 単位まとめ

付録 C ギリシャ文字 Greek alphabet

よく数式の記号でギリシャ文字が用いられるので、知っていると役に立つだろう。

表 6: ギリシャ文字

読み方		大文字	小文字	読み方		大文字	小文字
alpha	アルファ	A	α	beta	ベータ	B	β
gamma	ガ ノマ	Γ	γ	delta	デルタ	Δ	δ
epsilon	イフ シロ	E	ε, ϵ	zeta	ゼータ	Z	ζ
eta	イータ	H	η	theta	シータ	Θ	θ, ϑ
iota	イオ	I	ι	kappa	カッパ	K	κ
lambda	ラムダ	Λ	λ	mu	ミュー	M	μ
nu	ニュー	N	ν	omicron	オミクロ	O	o
xi	クシー, グザイ	Ξ	ξ	pi	パイ	Π	π, ϖ
pho	ロー	P	ρ, ϱ	sigma	シグマ	Σ	σ, ς
tau	タウ	T	τ	upsilon	ウプシロン	Υ	v
phi	ファイ	Φ	ϕ, φ	chi	カイ	X	χ
psi	フサイ	Ψ	ψ	omega	オメガ	Ω	ω